

「(プログラム名称を記入) 参加報告書」

京都大学文学部2年 (氏名) 前川弥優

このフィリピン研修では実に多様な施設、人々、場所を訪問させて頂き、フィリピンについて複数の側面から知ることができたと感じます。マニラ市内を歩いているだけで窺える貧富の差や、気候や交通事情などといった日本との違いはもちろんのこと、実際のインタビューを通して知ることができたフィリピンの移民事情、家族観や社会の現状、私たち日本人との価値観の違いなどは大変興味深いものでした。

研修を通して私が得たフィリピンについての一番の感想は、フィリピンは世界に人材を送り出している国であるということです。フィリピンには外国へ出稼ぎに行き、家族に仕送りをする国民が多いです。今回フィリピンから外国へエンターテイナーとして出稼ぎに行く女性達のオーディションやダンスレッスン、また外国へ家事や介護福祉の仕事をするために出稼ぎに行く人々の職業訓練施設の見学、そして彼らに実際にインタビューをすることができました。日本に出稼ぎに来ているフィリピンの人に対し、恥ずかしいことではありますがそれまで私自身知識がかなり乏しかったので、彼らが母国でしっかり訓練され資格を得て来日していることを初めて知りました。こうした日本人からあまり認知されていないであろうフィリピン人労働者がフィリピンで外国で働くための訓練や努力を積んでいる事実を多くの日本人に知ってもらうことは、彼らへの理解や尊敬を呼び起こして偏見をなくすのに役立ち、また多文化共生をより良いかたちで実現するのに貢献するのではないだろうかと思います。また、外国へ出稼ぎに行くことを望むフィリピンの人々、過去にそれを経験した人々から彼らを斡旋あるいは訓練する仕事をする方々にいたるまで、様々な立場にいる人々の考えや思いを直接知ることができたのは大変貴重な経験であったと思います。興行ビザ、入管などの現在フィリピンから出稼ぎに来る人々の直面する様々な問題や、出稼ぎ労働者が出稼ぎに行くまでどのように斡旋され、訓練されるのかの一連のシステムについても詳しく知ることができました。これはフィリピン人に限りませんが、外国人労働者受け入れに関する様々な問題は どうしてあるのか、そしてどのように解決すれば良いのか考えさせられました。

出稼ぎに行きたいフィリピンの方々の話を聞いていて印象に残ったことは、彼らが家族の絆を強調していたことです。親が外国に出稼ぎに行っている間残った子供の面倒はフィリピンにいる親戚が任せられ、親はフィリピンにいる彼らに仕送りをするそうです。制度の都合で出稼ぎ先の国に子供を連れていくことはできないのですが、それでもフィリピンの親戚に子供を預けられるので行くことができる、フィリピンは家族の絆が強いのだとお話してくださった方は言っていました。遠く離れていても互いに支えあっている家族のかたちが窺えました。出稼ぎに行く人は少なくまた核家族化が進んでいる日本で暮らしている私にとって、そのような家族の姿はとて新鮮でした。今回の研修では、この他の場面においてもフィリピン人は家族関係を大切にするというお話を度々耳にしました。フィリピンの家族形態、フィリピン社会の家族観は日本と異なり研修を通して私に関心をかき立てられたもののひとつです。

研修中に新たに知り学んだことを挙げようとするときりがありません。それほど内容が盛りだくさんの研修でした。この報告では、現在研修を振り返り特に印象に残っているものについて記述させて頂きました。今回このような大変貴重な経験をさせて頂いたこと誠に感謝しております。ありがとうございました。